ハイブリッド開催

第691回
日本小児科学会東京都地方会講話会
プログラム

※講話会プログラムの郵送はいたしませんので、各自ダウンロードいただきますようお願いいたします。

日　　時：　2023年7月8日（土）午後2時00分

来場開催会場：　アットビジネスセンター八重洲501号室

ライブ配信URL：

https://nihon-u-ac-jp.zoom.us/j/84324802222?pwd=WWZNbzNxb1NwK1RKM3k4V3A2ZU5Kdz09

ミーティングID：843 2480 2222　　パスコード：208860

参加方法	参加費	教育講演受講単位及び 学術集会参加単位について	備　考
来場参加	1,000円	小児科領域講習1単位（iii貼付用） 学術集会参加単位（iv-B貼付用）	＊単位を取得するためには教育講演全ての聴講が必要（60分）
WEB参加	無　料	単位配布のご用意はございません。	＊WEBにてご視聴いただく場合、聴講後に視聴者ログ、視聴時間などの情報共有をいただきますことをご了解お願いいたします。

【会場アクセス】

■JR東京駅（八重洲口）より徒歩約10分

■日比谷線 八丁堀駅より徒歩2分

※日比谷線八丁堀駅（A5出口）

アットビジネスセンター八重洲501号室

東京都中央区八丁堀1-9-8　八重洲通ハタビル5・6階

※建物の外観：ガラスカーテンウォール

※看板表記：ABC conference room

【東京都地方会】

会　長：森岡一朗（日本大学医学部小児科主任教授）

主幹校：日本大学医学部小児科　担当：岡橋　彩

連絡先：jpstokyo-office@umin.ac.jp

※講話会中の緊急のご連絡は会場03-6627-2151まで

東京都地方会HP：https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/

第691回日本小児科学会東京都地方会講話会プログラム

（1題6分、指定発言5分、追加討論3分以内厳守のこと）

≪プログラム係　岡橋　彩≫

一般演題　　14：00－15：10

座長1　中﨑　公隆（東京都立小児総合医療センター腎臓・リウマチ膠原病科）

座長2　金澤　剛二（日本大学小児科）

1）腹部超音波検査による診断と経過観察を行ったIgA血管炎に伴う十二指腸潰瘍の1例

○田中　智秀、神保　圭佑、新井　喜康、中村　明雄、三森　愛美、福嶋　健志、田中　裕子、仲川　真由、稲毛　英介、安部　信平、鈴木　光幸、工藤　孝広、清水　俊明

（順天堂大学小児科）

5歳女児。腹痛と吐下血のため紹介となった。腹部超音波検査で十二指腸潰瘍と診断し、また小腸に散在する浮腫性壁肥厚も認めたため血管炎症候群を疑った。翌日、下肢に紫斑を認めIgA血管炎と診断し、制酸薬およびプレドニゾロン（1mg/kg/日）を開始した。腹痛は速やかに消失し、再出血もなかった。ステロイドの副反応に潰瘍形成があるが、本症例では経時的な超音波を行うことで、リスクを回避しつつ治療を行うことが可能であった。

2）繰り返す嘔吐と体重増加不良を呈し診断に苦慮した回盲部異所性胃粘膜の乳児例

○平石　千尋[1)]、岸　崇之[1)]、佐藤　友哉[1)]、大川　拓也[1)]、森　有以[1)]、大宮　亜希子[1)]、末吉　亮[2)]、関　敦子[3)]、永田　智[1)]

（[1)] 東京女子医科大学病院小児科、[2)] 同　小児外科、[3)] 同　病理診断科）

8か月男児。生後6か月時に下痢、嘔吐、哺乳不良のため感染性胃腸炎の診断で2回入院加療したが、退院後も症状が改善せず、体重増加不良を認めた。腹部単純X線写真で拡張小腸ガス像を認め、上部消化管造影および注腸造影では回腸末端の拡張と蟹爪状の陰影欠損を伴う上行結腸の狭窄像を認めた。腹部MRIでは上行結腸に嚢胞状腫瘤を認め、腸管重複嚢胞を疑い回盲部切除を行った。病理組織学的検査では異所性胃粘膜であった。

○指定発言　世川　修（東京女子医科大学病院小児外科）

3）左片麻痺と右顔面神経麻痺を契機に脳幹部類表皮のう胞と診断された幼児例

○新村　南[1)]、太田　千寿瑠[1)]、田中　克侑[1)]、笹本　武明[1)]、本多　隆也[1)]、樋渡　えりか[1)]、廣津　竜也[2)]、野中　雄一郎[2)]、柳澤　隆昭[2)]、秋山　政晴[1)]、大石　公彦[1)]

（[1)] 東京慈恵会医科大学小児科、[2)] 同　脳神経外科）

4歳女児。半年前から左上肢の不全麻痺と右口角下垂を認めた。頭部MRI検査で橋を中心に腫瘤を認めた。腫瘤の右側への偏在性及び緩徐な病状進行が、びまん性橋膠腫としては非典型的であり、生検術により類表皮のう胞の病理診断とした。脳幹部腫瘍は、部位の特殊性から臨床所見と画像検査のみで診断する傾向があるが、個々の症例に応じて慎重な判断が必要である。小児の脳幹部類表皮のう胞は稀で、文献的考察を加え報告する。

4）小脳失調を契機に診断に至ったOpsoclonus myoclonus ataxia syndrome（OMA）の3歳幼児例

○日比生　武蔵[1,2)]、小嶋　まゆき[1,2)]、瀧　栄志郎[1)]、草場　香菜子[1,2)]、松本　孝子[1)]、坂口　慶太[1)]、藤村　純也[2)]、清水　俊明[2)]

（[1)] 東京都立東部地域病院小児科、[2)] 順天堂大学小児科）

3歳男児。2週間前からの歩行のふらつきを主訴に当院に紹介となった。失調歩行及び体幹動揺を呈しており、特発性の急性小脳失調症と暫定診断した。腹部造影CT検査で石灰化を伴う腫瘤性病変を認め、OMAを疑い高次医療機関に転院し神経芽腫と診断した。OMAは眼球異常運動、振戦、小脳失調を3徴とする傍腫瘍性神経症候群の1つである。急性失調をきたす疾患は多岐にわたるため系統立てて鑑別を進めるべきである。

５）合併症の有無で対照的な管理を要した重症複合免疫不全症の２例

○古野　秀裕[1)]、星野　顕宏[2)]、西山　洋平[2)]、西村　聡[2)]、宮本　智史[2)]、神谷　尚宏[2)]、磯田　健志[2)]、高木　正稔[2)]、梶原　道子[3)]、金兼　弘和[2)]、森尾　友宏[2)]

([1)] 東京医科歯科大学総合教育研修センター、[2)] 同　小児科、[3)] 同　輸血・細胞治療センター）

重症複合免疫不全症（SCID）は、同種造血細胞移植（HCT）が根治治療である。保因者母親からの出生で出生日に診断された１例と、感染および非感染性合併症を契機に診断された１例における HCT 前後の経過を提示し比較する。東京都でも拡大新生児マススクリーニングが始まり、新生児期に合併症のない SCID の診断例が増加すると考えられる。家族歴聴取の重要性、マススクリーニングの有用性、HCT 前後の管理について検討する。

６）VFR（Visiting friends and relatives）後に熱帯熱マラリアを発症した７か月乳児

○佐久間　亮[1)]、松梨　聡史[2)]、塩田　翔吾[2)]、髙砂　聡志[2)]、瓜生　英子[2)]、山中　純子[2)]、望月　慎史[2)]、五石　圭司[2)]、七野　浩之[2)]、川島　亮[3)]、櫻井　彩奈[3)]、守山　祐樹[3)]、山元　佳[3)]、早川　佳代子[3)]、狩野　繁之[4)]

([1)] 国立国際医療研究センター病院医療教育部門、[2)] 同　小児科、[3)] 同　国際感染症センター、[4)] 国立国際医療研究センター研究所熱帯医学・マラリア研究部）

7 か月男児。カメルーンに帰省後の発熱を主訴に他院を受診し、マラリアの診断で当院紹介となった。鏡顕にて熱帯熱マラリアと診断、寄生率は 3.4% であり、schizont が確認された。入院の上、アルテメテル・ルメファントリン開始し、3 日目には解熱がえられ寄生率が 0% となり、翌日退院した。本邦では希少な乳児マラリア症例を経験した。海外渡航者数が増加の中、マラリアを含めた輸入感染症の診療に留意する必要がある。

○指定発言　岩元　典子（国立国際医療研究センター病院国際感染症センター）

＊　＊　　休　　憩　　15：10 － 15：20　　＊　＊

感染症だより　15：20 － 15：40　（講演：15 分 + 質疑応答：5 分）

講師　神谷　元（国立感染症研究所感染症疫学センター）

共催セミナー　15：40 － 16：20　（講演：40 分）

「検査してください ALP、確認してください「ALP 低値」
－急速に進む地域の医科歯科連携で難病診断と治療の実際－」

座長　内木　康博（国立成育医療研究センター内分泌・代謝科）
講師　村山　圭（順天堂大学大学院医学研究科難治性疾患診断・治療学）

低ホスファターゼ症（Hypophosphatasia：HPP）は、ALPL 遺伝子の変異によって引き起こされる稀な遺伝性代謝疾患である。HPP の表現型は、周産期型から成人型まで多岐にわたり、以前は周産期重症型が高い死亡率を示していた。HPP 診断の主要所見として乳歯早期脱落、主要検査所見として低 ALP 値があり、年齢・性別の血中 ALP 低値を認識するという基本的な姿勢が本疾患の予後の改善を大きく左右すると考えられる。本講演では実際の症例を中心に解説を行う。

共催：アレクシオンファーマ合同会社

＊　＊　　休　　憩　　16：20 － 16：30　　＊　＊

総会および名誉会員授与式　16：30 － 16：40

令和４年度名誉会員　岩田　敏先生

教育講演　16：40 － 17：45　（講演：60 分 + 質疑応答：5 分）　**小児科領域講習１単位**

「小児外科医の漢方薬によるあきらめない治療　日常疾患から先進医療まで」

座長　窪田　満（国立成育医療研究センター総合診療部）
講師　上原秀一郎（日本大学医学部外科学系小児外科学分野）

私はこれまで便秘や感染症などの小児領域の日常疾患から、短腸症候群やヒルシュスプルング病類縁疾患、難治性下痢症などの重症腸管不全症例において、様々な漢方薬が症状改善に有効であることを体感してきた。我々、西洋医学を修めるものが病名や病態から漢方を処方する「病名漢方」でも十分にその効果を実感できている。今回、難解な東洋医学的解説を可能な限り除いて、私の実体験を元に、漢方薬の有効性と可能性についてお話ししたい。

◆　会員の皆様へ事務局より重要なお知らせ　◆

【会場費について】
2023 年 6 月より講話会会場費は 1,000 円にさせて頂きます。

【2023 年度年会費納入のお願い】
2023 年度年会費を 2024 年 3 月末日までに【会員マイページ】より納入手続きいただきますようお願いいたします。
※ 2022 年度以前未納の場合も【会員マイページ】よりお手続きお願いいたします。
３年間未納の場合、自動退会となりますのでご注意ください。
会員登録事項変更等についてもマイページより各自お手続きお願いいたします。

【東京都地方会名誉会員のご推薦について】
東京都地方会では名誉会員の推薦を随時募集しています。詳しくは東京都地方会ホームページにてご確認お願いいたします。

ご不明な点がございましたら事務局までご連絡をお願いいたします。

【次回以降開催予定】 2023 年 9 月 9 日（土）　来場（アットビジネスセンター八重洲）+ ライブ配信
2023 年 10 月 14 日（土）　来場（アットビジネスセンター八重洲）+ ライブ配信
2023 年 12 月 9 日（土）　来場（アットビジネスセンター八重洲）+ ライブ配信

【担当医局】 日本大学医学部小児科
連絡 ✉：jpstokyo-office@umin.ac.jp
※講話会中は会場 03-6627-2151 へご連絡ください。

【東京都地方会 HP】
https://plaza.umin.ac.jp/jpstokyo/

演題募集中！

登録方法などは詳しくは東京都地方会ホームページをご確認ください。